



新たな年に思いを馳せる

時が流れるのは早いもので、毎日の生活や仕事に追われながらふと気付くと師走。毎年12月になると“時が経つのは早いものだ”と改めて実感します。コロナ禍は相変わらずですが、新型コロナウイルス感染症への対応も年が明けると4年目になり、様々な知見をもとに家庭や学校で感染対策を行いながら、可能な範囲で活動を広げているのが現在の状況です。

師走を迎え、街の様子も日に日に慌ただしさを増し、今年の締めくくりと新しい年を迎える準備をする時期になりました。大晦日は1年間を振り返りながら、厳かな気持ちで年が明けのを待つ。そして、「年を越す」という節目を心して越える。子どもにも心して節目を越えさせたい。新年には自分の未来を思い描きながら、志を新たにしたいものです。「1年の計は元旦にあり」と言います。今の自分を見つめ、未来の自分の姿を思い描き、目標を決めて欲しいと思います。元旦に厳かな気持ちで新たな年に思いを馳せることを、節目を越えた年初に行うことに意味があり、その経験とその時の心持ちが、自分を成長させるための一助になるのではないかと思います。

2023年は卯年です。十干十二支(じっかんじゅうにし)で言うと癸卯(みずのと・う)になります。癸卯は、十干(じっかん)の10番目にあたる癸(みずのと)と、十二支(じゅうにし)の4番目にあたる卯(う)の組み合わせで、癸が水の陰のエネルギーを表し、卯が木の陰のエネルギーを表します。「癸」は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表しています。十干の最後にあたる癸は、生命の終わりを意味するとともに次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しています。「卯」は穏やかなうさぎの様子から、安全、温和の意味があります。また、うさぎのように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを始めるのに縁起がよく、希望にあふれ、景気回復など物事が好転するよい年になると言われています。2023年は「癸」と「卯」の組み合わせから、『これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年になる』と言われています。このような思いをもちながら、新年を穏やかな気持ちで迎えて欲しいと思います。



令和5年生徒会役員選挙実施

令和5年生徒会役員選挙は、会長に2名、男子副会長に2名、女子副会長に2名、事務局長に1名の7名の立候補者がありました。生徒会長と男女副会長については選挙で、事務局長については信任投票

で生徒会役員を選出しました。告示第1号で示された日程に従い、選挙運動が11月29日から始まり12月7日まで行われました。今年の生徒会役員選挙はコロナ禍での取り組みでしたが、基本的な感染対策を行いながら、できる限り通常通りの選挙活動を行いました。選挙活動を始めてみると、これまで学校生活のあらゆる場面で、様々な活動と感染防止対策の両立を絶えず意識しながら生活してきただけに、気を付けるべきポイントがよく理解されていて、安心して活動を見守ることができました。

立会演説会を12月8日に行い、翌9日に投開票を行いました。立会演説会は、本来であれば全校生徒が体育館に入っていくところですが、山梨県のコロナ感染状況が拡大傾向にあるので、生徒間の安全な距離を確保するために、3年生と1年生は体育館で立会演説会に参加し、2年生はWEB会議システムを使ってオンラインで教室からの参加としました。

各候補者と応援演説者の演説は、緊張の中にも意欲に満ち溢れていると感じさせる内容で、誰が当選しても今後の生徒会活動を安心して任せられる、と思える内容でした。

開票の結果、会長：龍田 総司さん、副会長男子：久保田 悠斗さん、副会長女子：保坂 くるみさん、事務局長：片桐 陽崇さんが当選・信任されました。当日の帰りの会の時間に結果を全校放送で知らせ、12日に校長室で選挙管理委員長の中村 由羽さんが当選証書を授与しました。

今後、会長・副会長・事務局長の4人を中心に生徒会本部を組織して、様々な活動を展開していきます。初めての大きな仕事は、「3年生に贈る会」の企画・立案及び運営になります。コロナ禍での「3年生に贈る会」の実施になりますが、3年生の現生徒会本部役員を手本に、新型コロナの感染対策を行いながらも様々なアイデアを盛り込んだ、有意義で3年生に感謝の心を伝えることができる会を実施してくれることと期待しています。

